

まだまだ

# アーティストックス通信

No.3 継続は力だ!



## 山中湖CL100回記念講演会開催のお知らせ!!

10/13の体育の日、山中湖のホテルで、「山中湖建設的な生き方を学ぶ会第100回記念講演会(長っ!)」がありました。社員と3人で参加してきました。いやあ、いい会でした!

とにかく、集まった人たちが温かい!こんな温かい講演会はめったにないですね。講師の杉井保之氏(オリジン・コーポレーション代表)と、勉強会を主宰している天野さんの人柄、いままでの縁を深めてきたことが、そこに表れているのでしようね。

勉強会を主催されている(尚)安心サービスの天野社長は、10年ほど前に公開カウンセリングというのを見学して、講師の杉井さんとお会ったそうです。



その公開カウンセリングで、悩みを相談している人が、最初は暗い顔をしてたのが、見る見るうちに明るく元気になり、笑ったりする姿を見て、「まるで魔法をかけられたようだった」  
抜苦与楽(人の苦しみを抜いて福楽を与える)をテーマとしている天野さんは「これだ」と思いました。安心サービスの杉井さんは生保損保代理店ですが、仕事だけでは、みなさんを抜苦与楽を十分していくことには、限界も感じていました。事故や病気になった時に保険金がおろるなどだけでは、決して苦を抜いて楽を与えることはできない。杉井さんの力をお借りして、山梨に住む人たちが天野さんに縁のある人たちを笑顔にしていきたい、抜苦与楽していきたいという思いで、山中湖で勉強会をはじめました。

それから毎月、山中湖に杉井さんが来てくださって、ずっと勉強会を続けてきて今回100回を迎えました。

記念講演会でもありますが、お祝いムードでもあります。東京、横浜、沼津、南アルプス、島田、浜松などの建設的な生き方(CL)を学ぶ会から、たくさんの参加者が駆けつけていました。そして地元山梨からも、普段勉強会に参加している人やその友人知人らがたくさん集まり、100席以上あった会場に立ち見が出るほどでした。

講師の杉井さんが到着すると、なかなか落ち着かない様子。その理由は、講演会終盤にわかりました。なんと、久しぶりにはいた靴の底がボロボロ壊れていって、すべてなくなってしまったそうです!笑)。体を張って会場を大爆笑にしてみました。杉井さんならではでした。



懇親会では、南アルプスの高遠翼君が、バイオリンを演奏してお祝いしてくれました。彼は、6歳の時小児ガンを発症し、右足を切断、肺をとりに、中学2年の時、脳腫瘍になり、当日も入院している病院から、どうしてもお祝いしてあげたいと駆けつけてくれて、その音色は、本当に心に響くすばらしい演奏でした。

とても多くの温かい心に支えられた、本当に素晴らしい会でした。参加させてもらい、運営にもかかわらせていただき、ありがとうございます。が、シラネト富士研修会に登場! 異業種交流会「シヨブネット富士」

は、井上幹世さん(井上労務管理オフィス代表)を中心として、縁が縁を呼んでいる楽しい会です。この11月研修会(11/7(金)18時45分富士パークホテル)に、S O H O しずおか等を経て、「日本一高いチャレンジスピリット」の富士産業支援センター長に就任された、小出宗昭氏が「地域には活かされるべきものがたくさんある」と世界にひとつの強みを見つけよう」と題して、身近な例を交えながら、ご講演いただけます。私もとても楽しみにしている会です。集まる人たちも素晴らしい。価値ある会、価値ある講演会です。興味のある人は、一緒に行きませんか?縁を結んでいきましょう。

### 11月イベント・活動予定

- 1(出) Eそうじの会 沼津市原・イリード様 ㊟ピカパウ1周年記念ライブ 三島市広小路・ラテンレストラ・ピカパウ
- 4(火) 山中湖建設的な生き方を学ぶ会 安心サービス様
- 7(金) シヨブネット富士「地域には活かされるべきものがたくさんある」小出宗昭氏 富士パークホテル
- 8(出) 伊東掃除に学ぶ会
- 8・9(土) 静岡経営塾 藤枝・オリジン・コーポレーション様
- 13(木) PM 沼津建設的な生き方を学ぶ会 沼津市原地区センター ㊟沼津経営塾 沼津市民文化センター
- 14(金) 月例社内研修(マネジメントゲーム)

通信の送り先が違うなどの方は、お手数ですが、下記までご連絡ください。

遠くをはかる者は富み、近くをはかる者は貧す

それ遠きをはかる者は百年のために杉苗を植う

まして春まきて秋実る物においてをや

故に富有なり

近くをはかる者は、春植えて秋実る物をも尚遠しとして植えず

唯眼前(たんがんぜん)の利に迷うてまかずして取り

植えずして刈り取る事のみ眼につく

故に貧窮す

——— 二宮 尊徳 ———

二宮 尊徳(にのみや そんとく、天明7年7月23日(1787年9月4日)・安政3年10月20日(1856年11月17日))は日本の江戸時代後期に「報徳思想」を唱えて、「報徳仕法」と呼ばれる農村復興政策を指導した農政家・思想家。通称は金次郎。ただし、「金治郎」の表記が正しい。諱の「尊徳」は正確には「たかのり」と訓む。

相模国足柄上郡栢山村(現在の神奈川県小田原市栢山(かやま))に百姓利右衛門の長男として生まれる。当時の栢山村は小田原藩領であった。14歳で父利右衛門が死去、2年後には母よしも亡くなり、尊徳は伯父二宮万兵衛の家に預けられた。伯父の家で農業に励むかわら、荒地を復興させ、また僅かに残った田畑を小作に出すなどして収入の増加を図り、20歳で生家の再興に成功する。この頃までに、身長が6尺(約18センチ強)を超えていたという伝承もある。

生家の再興に成功すると尊徳は地主経営を行いながら自身は小田原に出て、武家奉公人としても働いた。奉公先の小田原藩家老服部家でその才を買われて服部家の財政建て直しを頼まれ、見事に成功させて小田原藩内で名前が知られるようになる。その才能を見込まれて、小田原藩大久保家の分家であった旗本宇津家の知行所であった下野国桜町領(現在の栃木県芳賀郡二宮町周辺、なお同町の町名の由来は二宮尊徳である)の仕法を任せられる。後に東郷陣屋(栃木県真岡市)にあって天領(真岡代官領)の経営を行い成果を上げる。その方法は報徳仕法として他の範となる。その後、日光山領の仕法を行う。下野国今市村(現在の栃木県日光市)にて没。

二宮の仕法は他の農村の規範となった。没後の1891年に従四位が追贈されている。弟子の太友亀太郎は旧幕府下で札幌村の開拓を指導。亀太郎は札幌開拓の始祖と呼ばれる。

(フリー百科事典『ウィキペディア』(Wikipedia))より抜粋引用)